

講義名	哲学			授業形態	
担当教員	越後 圭一	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

哲学は、世界や人間の存在の有り様や存在そのものについて「問う」ことをします。常識や先人の教えを参考にしつつも、それらにとらわれず、じぶんの頭で「...とは何か?」と追求めることが哲学の基本姿勢です。とはいえ、やはり先人の教えを知ることは大事です。この講座では、おもに近世哲学の代表的な思想を紹介することで、じぶんの頭で考えるためのヒントにしてみたいと考えています。

到達目標

- ・知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基礎形成を促す教養をつけること。
- ・物事の本質を原理的に思考するヨーロッパ近世哲学の特徴をつかむこと。

提出課題

提出は2回。
 ・中間レポート：授業の感想や疑問点など
 ・学期末レポート：講義中で扱った思想や概念についての論述
 提出方法：各自Word等文書作成ソフトでファイルを作成し、RYUKA PORTALより送信。手書きレポートや手書きをスマホ等で撮影した画像による提出は受理しない。
 提出方法、テーマ、提出期間等の詳細については授業内で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小レポートに関しては授業内でフィードバックを行います。

評価の基準

授業はすべて講義形式で行います。RYUKA PORTALより毎回配布するレジュメを授業時間までにダウンロードし持参してください（プリントアウトorノートPCからの閲覧等）。教室では、スライドを使って授業を進めます。
 試験等はおこないませんが、2回のレポート提出物により評価をおこないます。
 小レポート（30%）、学期末レポート（70%）
 両方の提出がない場合は「不可」とします。
 受講しなくても書けるような一般的な内容のものではなく、授業の個別の内容を踏まえたレポートのみを採点対象とします。

履修にあたっての注意・助言他

哲学というと難しいイメージがあるかもしれませんが、この授業では近世哲学全体の特徴をつかみやすいように自思想家について深く踏み込まずにかんたんに概説するつもりですので、気軽に受講していただければと思います。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

各授業日までにRYUKA PORTALよりレジュメを配布します。参考文献は授業内で紹介する予定です。

授業計画

1. ガイダンス、中世から近世へ
2. 近世哲学のはじまり ルネサンス
3. 近世哲学のはじまり 宗教改革
4. 近世哲学のはじまり 科学革命
5. 合理論 デカルト
6. 合理論 デカルト
7. 合理論 スピノザ
8. 合理論 スピノザ
9. 合理論 ライブニッツ
10. 合理論 ライブニッツ
11. 経験論 ロック
12. 経験論 バークリ
13. 経験論 ヒューム
14. カントの批判哲学
15. カントの批判哲学

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業に臨むにあたり、それまで授業で配られたレジュメを復習し、思想の大まかな流れやキーワードを把握しておいてください（1時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力として、本講義は、物事を原理的に洞察する態度を身につけることを促し、（2）知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材の育成に貢献します。

双方授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業の進み具合等に応じて内容を変更する場合があります。